

キリバス共和国における 再生可能エネルギーの開発・普及



大統領府・外務省への表敬訪問

ベースライン
調査

表敬訪問5件
一般家庭調査3件

日本・キリバス両国関係者
による合意形成会合

日本10人
キリバス8人

活動の全体目標に
対する達成度

30%

課題

- 地球温暖化の影響を最初に受ける国として、国際社会へ対策推進のアピール
- 化石燃料依存からの脱却
- 健康被害の改善
- 宮城県での地球温暖化防止活動の停滞

活動内容

- キリバス共和国で再生可能エネルギー利活用の事業を進めるにあたり、公共事業省、環境省、大統領府、外務省のそれぞれの担当官に表敬訪問を行い、事業への理解と協力を取り付けた。
- キリバスで事業を実施する団体のKIRI-CANと意見交換を行い協働で事業を行う合意が取れた。
- キリバスの一般家庭を3件訪問し煮炊きの実態調査を行った。



NPO KIRI-CANとの集合写真

今後の課題

- 炭・炭団だけではなく、廃材を利用できるカマドの開発
- 炭・炭団を活用する必要性を理解するための環境学習プログラムの作成
- 電気・ガスのない離島での実施検討

成果と工夫した ポイント



成果

・キリバス共和国の人たちは炭・炭団の存在をほとんど知らなかったが、この活動を通して、島で循環するエネルギーに対して関心が高まっている。

工夫

キリバスで活動に参加する団体を教会から広いネットワークを持つNPO KIRI-CANへと変更した。